

おてっだいはおもしろいなあ

福井県 池田小学校 1年 杉本 湧唯

ぼくは、いままでにどんなおてっだいをしただろう。はしならべやにもつはこび、ごみだしなど、たくさんのおてっだいをしたことがある。でも、ずっとつづけてしているおてっだいが無いから、かぞくかいぎではなしあって、二つのおてっだいをがんばっていこうときめた。

一つは、「かぞくのくつならべ」だ。おかあさんが、

「げんかんはおうちのかおだから、いつもきれいにしていきたいね。」

とはなすのをきいて、よし！これだ！ときめた。

くつならべはおもしろい。おとうさんのくつは、大きくておもしろい。おかあさんとばあちゃんのかつは、いつもげんかんのすみっこにおいてある。おとうのかつは、小さくてたまにちらばっている。ほいくえんでたっぷりあそんでいるから、すこし土がついている。ぜんぶきれいにすると、とてもきもちがいいし、おきゃくさんにはやくきてほしいきぶんになる。くつもうれしいのかな。いもうとのかつはまだないから、はやくぼくのかつになりたいたいとおもう。

二つめのおてっだいは、「おふろのせいりせいとん」だ。ぼくは、おかあさんときょうだい三人でおふろに入っている。いもうとがーばんはやくあがって、つぎにおとうのかつをふくためにおかあさんがあがる。ぼくは、おとうとおもちゃをいっぱいゆぶねにうかべてあそぶのがすきだ。おとうともどどんおもちゃをだして、まんぞくそうにしている。二人で、水でっぼうをしたり、小さいおもちゃをならべたりしていると、すぐにじかんがたってしまう。

「あがっておいでー。」

と、おかあさんによばれて、おとうとがすこしだけかたづけてあがる。ぼくは、のこりをぜんぶかたづけてあげる。はじめは、おとうとだけずるいとおもっていたけど、おとうとはからだをふきながら、ぼくがかたづけるのをみている、

「おにいちゃん、ありがとう。」

という。そういわれるとうれしいし、かたづけてよかったとおもえるようになった。おとうとも、もうすこし大きくなったら、ぼくのおてっだいをしてくれるかもしれないな。さいごに、おふろにふたをして、おけやいすをせいとんする。ドアをしめて、でんきをきればできあがりだ。そうしたら、おかあさんが、

「おにいちゃん、ありがとう。かんぺき！」

と、きいて、だきしめてくれる。

おてっだいをすると、「ありがとう」がいっぱいかえってくる。ならべたくつがよろこぶ、せいりせいとんしたおふろがよろこぶ、みんながよろこぶかおをみせてくれるから、ぼくはがんばるきもちがわいてくる。まだぼくにできることはすくないけれど、いまのおてっだいをたのしみながらつづけていきたい。